



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.17

2011年12月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

乾季の農業

今年5月から始まった雨季も、10月中旬の連日降り続いたスコールを最後に、乾季の季節に入りました。ここから約半年、カンボジアではほとんど雨が降らなくなります。SAJ Farmでは「2012年4月、1haモデル農場を緑に!!」することを目指し、この乾季の農業に挑んでいます。

SAJ Farmの3カ年計画には、「2014年4月、1haモデル農場を循環型農場として完成させる」という目標があります。そのための第一ステップとして、今述べた目標があります。それは、この砂漠のような砂の大地を、「作物が育つ生命の宿る緑の大地」にすることです。今年度の目標を達成するまであと残り4カ月。私たちは様々な取り組みを行っています。

1haモデル農場にある3枚の水田。このうち1枚は、この雨季に稲作を行い10月に稲刈りを行った水田です。この水田を再び耕して、乾季に2期目の稲作を行う予定です。水は雨季の間に溜まった貯水池からひきます。実はこの水田、再び稲に穂が実っています。このように一度稲刈りを行った茎から再び茎を伸ばして成長することを「孫生え（ひこばえ）」と言います。このままこの穂の実が充実してくれたら、「一ヶ月後には再び稲刈り」ということになるかもしれません。

一方、他の2枚の水田はこの雨季に陸稲を育てて土壌の改良を行った水田です。こちらは、稲の茎が伸びきったところで土に鋤き込み、砂のような土の中に有機物を供給します。この2枚の水田は現在トラクターでの鋤き込みを済ませており、その鋤き込んだ稲わらを微生物が分解してくれるのを待っているところです。この2枚の内1枚はマメ科の植物を育て、鋤き込み、土の中の肥料成分を高めます。

もう1枚の水田は、堆肥場として、堆肥作りをここでしています。今回の堆肥作りでは、鶏糞、籾殻、米ぬかを使用します。11月にやっと鶏糞が手に入るようになりました。現在購入している養鶏業者さんから半月で約2トンの在庫がたまると言われています。これによって次の稲作の時期までの間、コンスタントに1カ月に4トンほどの鶏糞が手に入れられる状況ができました。

また、籾殻と米ぬかは農場近くの精米屋さんから購入しています。しかし、籾殻は現地の食品工場が多量に購入しており、手に入れることが難しい状態です。そこで、精米屋さんから手に入るときに一括で購入しています。これらの資材を混ぜる割合、堆肥を作る方法を模索し、簡易で素早く良い堆肥ができるかを試しています。



**籾殻が、強い日差しから
土と作物を守ってくれています。**



**緑の大地を目指して。
堆肥が山となって積まれています。**

次に畑です。1haモデル農場の畑は2枚あります。今年の乾季にさまざまな作物を実験的に育て、土壌改良を同時に進めていきます。1mの幅の広い平畝があり、鶏糞と籾殻を混ぜたものを敷きつめています。これがうまくいけば数カ月で分解されて肥料となり、この畝間の土を育ててくれます。

この畑を私たちはスライド方式の畑と呼んでいます。一方で作物を育て、他方で土を改良するための幅の広い畝間の列があり、それが交互に畑全体に並んでいる状態です。そして、次の作付け時期にはこの列をスライドして交換し、土を育てた畝間の場所に今度は作物を育て、前期に作物を育てた場所は土を改良する場所に交換するので、スライド方式と名付けられました。

作物を育てている平畝には、薄く籾殻を敷きつめ表土を覆っています。これによってカンボジアのカンカン照りの日差しから土を守ることができ、消耗を抑えることができます。また、表土からの水の蒸散を防ぐ効果も期待することができるので、作物にとって過ごしやすい畑にすることができます。この畑では水が足りなさそうな時は井戸から水を引いてまいています。また、養鶏場として鶏を飼育している場所もあります。鶏に土を突っついてもらって耕してもらい、その糞をその土の肥料分として、この場所の土を育てていきます。

こうして現在、「1haモデル農場を緑にする!!」という目標に向かって、カンボジアの風土・気候に合った農業を模索しています。

ここ10年で最悪の…

タイでの洪水被害が日本でも連日報道されていたかと思います。日系企業もその生産工場に浸水の被害を受け休業を余儀なくされ、460社という数の日系企業が洪水の影響を受けたとされています。今回の洪水で、タイでは400人以上の方がなくなっております。

タイがこの洪水の被害を受けているころ、その隣国、ここカンボジアでも洪水の被害が広がっていました。連日、5、6時間にわたって降り続くスコール。これによって、ここ10年以内で最悪の洪水被害をもたらしました。カンボジアでは、250人近くの方が命を落とされました。

洪水は、カンボジアの水田をもその水の中へと飲み込んでいきました。カンボジア全土の水田の内、その約10%の25万ha以上の水田が冠水しました。稲は約10日間そのすべてが水の中に冠水してしまうと収穫ができなくなると言われており、10月初めの時点でカンボジア全土の水田の内、3%あたる7万ha強の水田が全滅したとされております。

既にカンボジアは乾季に入りましたが、この雨季の洪水の影響はあと数カ月から長ければ1年、この国の国民の生活を圧迫するでしょう。米や野菜等の食料の価格が上昇しているのです。

国が食糧危機に瀕した際に、真っ先に影響を受けるのは貧困層の国民です。稼ぎのほとんどが食費に消えてしまい、その日一日の食費をまかなうのがやっとという人たちです。カンボジアにはそのような人々がまだまだたくさんいます。プノンペンには豊かな生活をしている人々も多いですが、地方の貧困層は十年前となんら変わらない生活を強いられています。

安定した食糧供給が、自国の国民を守るための最も基本的で重要な条件なのではないかと思えます。SAJ Farmは、カンボジアという国のこういった側面において、貴重な使命を帯びているのだと思えます。

編集後記

「農は国の基なり」という言葉を聞いたことがあります。われわれ日本人もこの言葉の意味を、あらゆる角度で考える必要があるのではと考えます。

SAJ Farm 五月女